

新型コロナウイルス感染状況における 妊産婦の不安の現状とその対策

日本産婦人科医会
母子保健部会
(2020.7.8.記者懇談会)



(1)新型コロナウイルス禍における妊産婦の不安の現状

- ①周産期医療・母子保健事業におきていた変化
- ②妊産婦の不安
- ③病院でみられた問題
- ④今後の対策を考えていく上で参考にしたいこと

(2)新型コロナウイルス禍でのメンタルヘルスケア ～オンラインの活用～

- ①東京都城南地区N病院での試み
- ②埼玉県産婦人科医会の取り組み



(1)新型コロナウイルス禍における妊産婦の不安の現状

《背景》

- 2019.11.22. 中国武漢「原因不明のウィルス性肺炎」の症例を確認
- 2020.1.16. 日本での感染者を確認
- 2020.3.11. WHO「パンデミック」宣言
- 2020.4.7. 緊急事態宣言（東京、神奈川、大阪など7都府県）
→ 2020.4.16. 全国に拡大
- 2020.4.10. 厚生労働省子ども家庭局（家庭福祉課、母子保健課）事務連絡
「母子保健事業の実施に係る新型コロナウイルスへの対応について」
- 2. 妊産婦及び乳幼児に対する健康診査、保健指導等について
「感染拡大警戒地域」では原則として集団での実施を延期すること、
その他の地域でも必要に応じて延期等の措置をとること
- 3. 保健師による訪問指導等について
訪問する家庭の家族および事業従事者に感染を疑わせる症状がないこと
を確認した上で、感染機会を減らすための工夫を行うこと

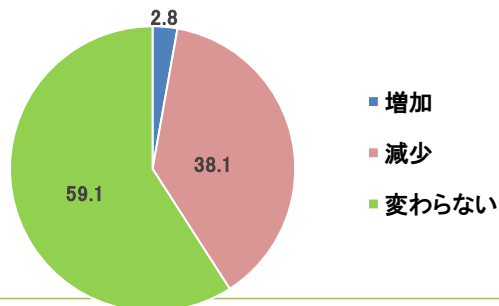


①周産期医療・母子保健事業におきていた変化

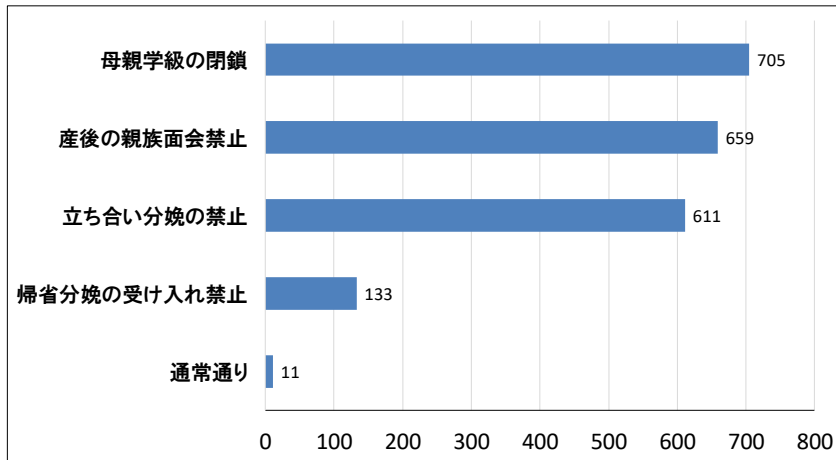
①-1: 医療機関の対応(日本産科婦人科学会アンケート調査から)

- ・アンケート実施期間: 2020/5/18～5/31
- ・対 象: 日本産科婦人科学会員
- ・方 法: インターネット調査
- ・回答者: 2446名(うち施設責任者1160名、分娩取り扱い施設766名)

外来患者における妊婦の動向について(N=1160)



妊婦に対しておこなってきた対応の変化(N=766)



日本産科婦人科学会アンケート調査から

①-2: 行政機関の対応(東京都城南地区(品川区・大田区)の状況)

《妊娠面接時》	対 応
母子手帳配布状況	通常通り
妊娠面接	通常通り
妊婦面談	通常通り(訪問希望は少ない)
《妊娠中～産後の支援》	対 応
母親学級	中止
新生児訪問	嫌がられる
乳児健診	集団で行うものは中止
《産後ケア事業(品川区)》	対 応
宿泊型	中止
デイケア型	中止
アウトリーチ型	ほとんどは電話で対応 5月は産後1か月以内の産婦の 相談が増加(通常20%→40%)



①-3: 葛飾赤十字病院産科での周産期医療の変化

(期間)		1/27~2/28	3/11~4/13	4/20~5/28
出産数		128	132	112
母親の年齢	19歳>	2(1.6)	2(1.5)	3(2.7)
	≥40歳	26(21.1)	25(18.9)	25(22.2)
経産婦		71(55.4)	59(44.7)	48(42.9)
帝王切開分娩		45(35.2)	40(30.3)	43(38.4)
EPDS				
	平均	5.5±3.9	5.5±4.0	5.4±3.5
	≥9点	17(13.3)	19(14.4)	12(10.7)
赤ちゃんへの気持ち質問票				
	平均	2.4±2.4	2.7±2.9	2.5±2.4
	≥3点	22(17.2)	39(29.5)※	24(21.4)

()内%、※ P>0.05

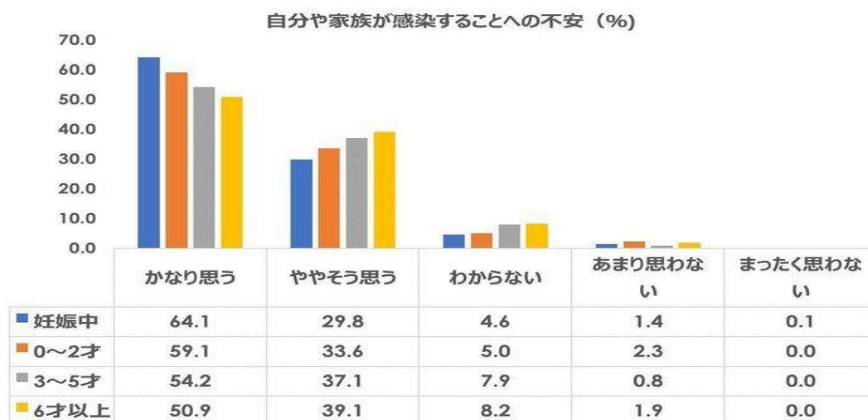


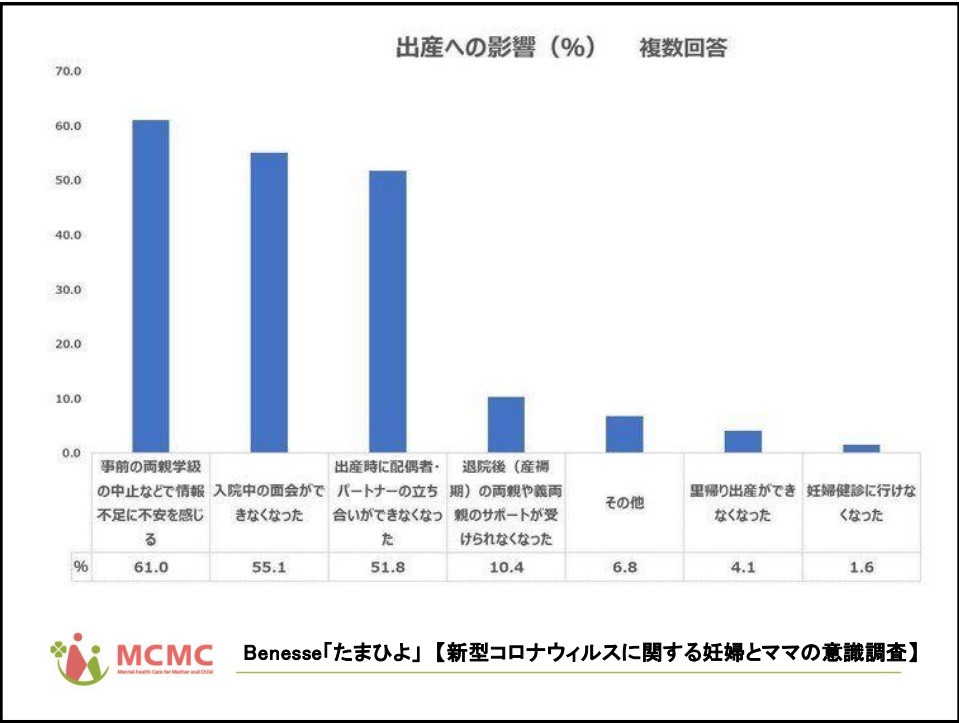
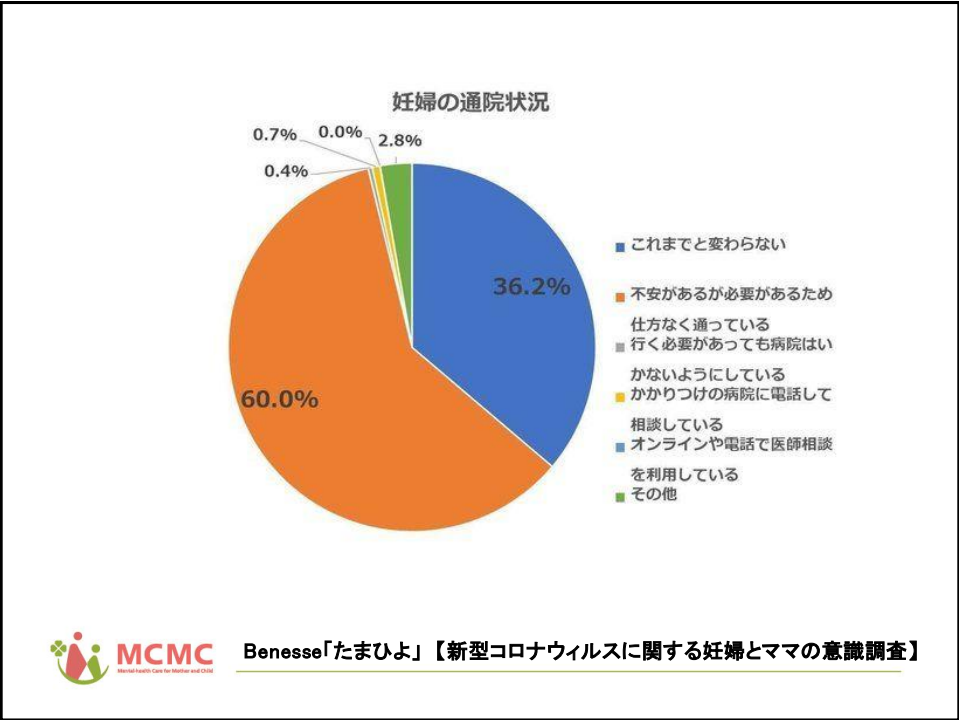
②妊産婦の不安

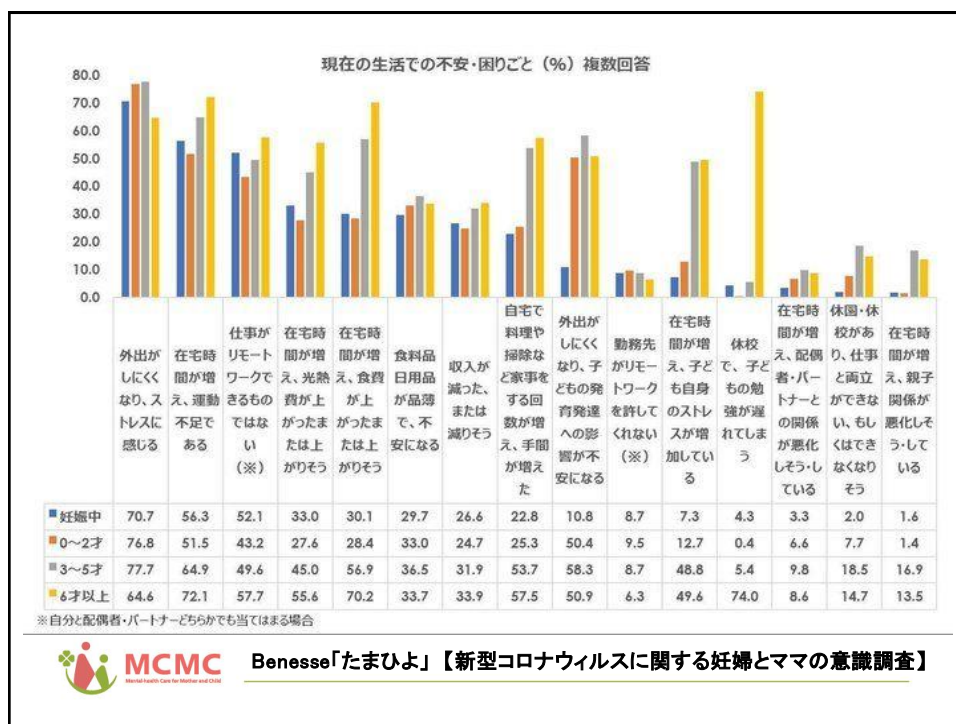
「たまひよ」【新型コロナウイルスに関する妊婦とママの意識調査】

(<https://st.benesse.ne.jp/ninshin/content/?id=74041>)

- ・調査対象: 妊娠中もしくは子供のいる女性(4,411名、うち妊娠中3,207名)
- ・調査期間: 2020/4/17~4/20
- ・調査方法: インターネット調査







③病院でみられた問題

●城南地区N病院産科外来

- ＜1＞予定していた産後ケアや実母の援助などの支援が得られなくなり不安
- ＜2＞夫は飲食業、コロナの影響で失業するかもしれない、経済的に不安。
- ＜3＞狭い家で3世代同居、夫は在宅勤務、上の子は保育園利用不可、公園も「3密」なので子どもを連れて街をさまよっている。子どもが生まれたら恐怖。
- ＜4＞アパートで近隣も自粛生活をしているが、子どもの騒ぐ声で住民同士が喧嘩をしている。子どもが生まれて泣いたらどうしよう。
- ＜5＞在宅で家にいる夫から外出を制限され、保健センターにも行けない。夫は育児には全く関心がなく、産後が不安。
- ＜6＞夫の暴力、学校は休校中なので子どもにとっては面前DV。（児相介入）

●K病院精神科外来

- ＜1＞産科での指導が受けられなくなり、出産への不安が増強してパニック
- ＜2＞医師の説明を聞く際にも家族の同席ができず、退院後にうつ状態

④今後の対策を考えていくうえで参考にしたいこと

④-1: 日本精神神経学会の提言

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)パンデミック下において
親子・学校・女性のメンタルヘルスのサポート役割を担っていく
学会員や、保護者・女性へのメッセージ2020.5.16.(抜粋)
日本精神神経学会 精神保健に関する委員会 親子・学校・女性グループ

〇コロナ禍における女性のメンタルヘルス スティホームがもたらすものー

(中略)日本の女性が家族の中で担ってきた役割を鑑みると、長期にわたるスティホームは、女性により大きな影響を与える可能性があります。…女性にとっては、自分自身が「働き手」であることは別の次元で、しかし同時に「母親」「妻」「嫁」「娘」といった家族に係る役割も重くなることを意味します。

- 1)仕事量の負荷の増強 — 過労とともに心の余裕をなくしてしまう可能性
- 2)スティホームによる関係性の変化 — 離婚、DV、児童虐待の危機
- 3)就労関連の危機 — 女性の側に経済的不利益が生じやすい
- 4)その他: アルコール・薬物依存の危険、過食



④-1: 日本精神神経学会の提言(続)

〇女性のこころの健康のためにー精神科医にできることー

- 1)コロナ禍における心身の変化について積極的に質問してください。そして不安は異常事態における正常な心理的反応であることを説明します。
- 2)時間的に余裕がなくなっていたり、睡眠障害が起こっている場合には、無理のないスケジュールリングについて積極的に話し合ってください。本人の頑張りをねぎらうことを忘れないでください。
- 3)イライラやストレスは月経の状態に反映されることがあります。月経の状態についてもチェックしましょう。
- 4)パートナーがいる場合には、DVの有無を含め、関係に変化がないか尋ねてください。
- 5)子どもとの関係についても尋ねてください。
- 6)明らかなDVや虐待が認められた場合には、相談窓口になるべく早くつないでください。
- 7)生活上の具体的な問題解決と一緒に取り組んでください。

④-2: 周産期の母親・父親のメンタルヘルスは
子どもの認知機能や情緒的発達に影響を及ぼす

妊娠中の母親の抑うつ	情緒障害、行動障害、思春期の抑うつ アタッチメントの障害、認知機能の障害、 身体的発育不良(低収入国)、
産後の母親の抑うつ	感情のコントロール不良、学童期の社会適応困難、 思春期の抑うつ、思春期に及ぶ注意欠陥や多動、 アタッチメントの障害、幼少期の全般的認知機能の障害、 身体的発育不良や下痢(低収入国)、
父親の抑うつ	幼少期の情緒や行動の障害、思春期の抑うつ、 言語機能の発達障害



A. Stein. et al. Lancet. 2014;384: 1800-19

小括(1) 新型コロナウイルス禍における妊産婦の不安の現状

- 1) 新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策によって、妊産婦に対する支援(集合・対面で行う支援)が行いにくい状況になっている。
- 2) ウイズ・コロナ時代の新しい生活様式(働き方の新しいスタイル)には女性にとって心身のストレスを増大させる側面がある。
- 3) このような状況で、妊産婦は今までにない様々な不安やストレスを潜在的に抱えている可能性が高い。
 - ・新型コロナウイルスの感染に対する不安
 - ・産後のケアが十分に受けられないことへの不安
 - ・生活の変化に伴う夫や家族との関係性における問題
 - ・就労の問題、経済的不安など
- 4) この時期の妊産婦のメンタルヘルスクアは、このような心理社会的問題に一層目を配ると同時に、子どもの成長・発達に及ぼす影響も考慮して、妊産婦を孤立させず、長期的な視野でフォローしていく体制作りを考え抜いていく必要がある。



(2)新型コロナウイルス禍でのメンタルヘルスケア ～オンラインの活用～

《背景》

- ・2020.4.24. 厚生労働省子ども家庭局母子保健課事務連絡
「新型コロナウイルスの感染拡大に伴い出産に不安を抱える妊産婦の方々への配慮について」
 1. 出産等に不安を抱える妊産婦への支援について
 - ・・・医療機関や保健所等の関係機関と十分連携し、・・・電話等による相談支援を行うなど、妊産婦の不安の解消に努めていただきたい。
- ・2020.4.24. 厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課・母子保健課
「母子保健事業等の実施に係る自治体向けQ&A」について
 - 面談による相談支援や訪問事業、両親学級や健康教室等
 - 妊婦健診のうち、電話やオンラインで行うことができる一定の事項
 - 産婦健診事業、産後ケア等について、時限的に電話やオンラインで行うことは差支えない。
- ・2020.6.2. 厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課・母子保健課
「母子保健事業等の実施に係る自治体向けQ&A」について(改正)
面談による相談支援や訪問事業、両親学級や健康教室等、妊婦健診の一部、産婦健康診査事業、産後ケアなどを電話やオンラインで行うことは差し支えない。

①東京都城南地区N病院での試み ～妊産褥婦ケア体制の再構築～

- 1)妊婦健診におけるスクリーニング機能を強化する
面談や診察の時間を短くしつつ、効率よくスクリーニングを行う
血圧測定を行いながら、壁に貼ったスクリーニング項目をチェック
- 2)産後2週間のフォローを電話またはオンラインで行う
- 3)今後は両親学級やマタニティーヨガもオンラインで行う

①N病院での試み ～産後2週間の電話によるフォロー～

- ・実施期間： 2020年5月
- ・対 象： 初産婦17名、経産婦9名
- ・方 法： 抑うつスコア、ボンディングスコアを定型化し、電話によるスクリーニングを行った。（産後2週間、所要時間15分）
- ・結 果： スコアの点数や高得点褥婦の割合は従来と同じ、電話でも十分にスクリーニング可能と考えられた。
- ・産婦の満足度：「安心した」「助かった」「不安が軽減した」との感想、全員が継続を希望
- ・ツールの希望： 電話12名、WEB3名、どちらでも8名

オンラインを用いることで児の発育や黄疸の観察が可能になり、産婦健診のほとんどの項目をカバーできることから、現在は電話とオンラインを選択できる形にしている。



②埼玉県産婦人科医会の取り組み

「妊産婦の心のケア・無料オンライン相談窓口」

- ・目 的： 新型コロナウイルスの流行に伴い、孤立しがちな妊婦や、育児中の母親の心のケアを目的とした相談事業
- ・方 法： オンライン診療アプリ「CLINICS」を用いたオンラインでの相談。
- ・対象者： 県内で妊婦健診を受けている方、分娩を予定されている方、産後で埼玉県に在住されている方
- ・相談者： 母と子のメンタルヘルスケア研修会に参加した医師・助産師・看護師等。
- ・実施機関： 初動7産科医療機関
- ・相談料： 無 料(1回30分以内)
- ・施行期間： 2020.5.25.～2021.4.30.



2020年に突如始まった新型コロナウイルス流行。感染を防ぐためにこれまでの日常が大きく変わりました。立会分娩や入院中の面会の制限、母親学級の中止、普段の日常でも感染しないように家の中で過ごしがちですね。感染を防ぐためには仕方がないけど、ストレスをためてしまいがちではありませんか？

埼玉県産婦人科医会では、新型コロナウイルスの流行に伴い孤立しがちな妊婦さんや、現在育児中のお母さんの心のケアを目的とし、オンライン診療アプリ（CLINICS）を用いた無料オンライン相談窓口を2020年5月より開設しています。母と子のメンタルヘルスケアに精通した助産師や医師、臨床心理士等が対応いたします。

ぜひ、
私達にご相談ください！

埼玉県内で
妊婦健診を受けている方、
分娩を予定されている方、
産後で埼玉県に在住され
ている方は誰でも
無料で相談できます



どんなことが相談できるの？

～妊娠中～

- ・ずっとおうちにて、運動不足な感じでイライラしちゃいます。おすすめの運動はありますか？
- ・新型コロナウイルスが流行っている時に仕事をしなくてはいいけど、通勤や通学で感染しないか心配です。
- ・夫が、家でタバコを吸います。赤ちゃんへの影響はありますか？
- ・心配で、悲しくなります。
- ・妊娠中、おっぱいのお手入れはしてもいいの？
- ・ご飯を作るのが面倒です。私は良いお母さんになれるかしら？

～出産後～

- ・赤ちゃん和二人っきりで、外にも行けず、泣かれるとイライラします。
- ・私の赤ちゃんは、ちゃんと育っているのかしら？
- ・母乳やミルクの量はこれでいいの？うんちとおしっこも正常なのか教えてほしい。
- ・なんだか不安が消えず、今まで楽しかったことが楽しめません。

相談窓口担当者より

妊娠中や出産後は、心配なことがたくさんありますね。自分一人で解決しようとするとなんか不安になってしまうこともあります。そんな時、このオンライン相談窓口ではパソコンやスマートフォンの画面を通して直接顔を見ながら、助産師がお話を聞くことができるので安心です。

心配な事を少しでも解決するために、この無料オンライン相談窓口をご利用ください！

※新型コロナウイルス感染症に関する一般的な相談は、「埼玉県新型コロナウイルス感染症県民サポートセンター（24時間受付）」をご利用ください。

小括(2)新型コロナウイルス禍でのメンタルヘルスケア ～オンラインの活用～

- 1) 新型コロナウイルスの感染を契機に、妊産婦の健診や支援を安全に効率よく行うための工夫が行われており、中でもオンラインを用いた産婦健診やメンタルヘルスケアの試みが始まっている。
- 2) 東京都城南地区N病院の試みでは、電話による産後のフォローは患者の満足度が高く、今後ICT利用の抵抗感が軽減していけば、妊産婦健診や各種の支援事業にオンラインの活用が期待できるのではないかと考えられた。
- 3) 今後はオンラインによる産婦健診やメンタルヘルスケアのメリット、デメリットおよびその限界についての知見を蓄積し、面接や訪問と組み合わせることで、新しい時代の周産期メンタルヘルスケアの形を考えていく必要がある。

まとめ

- 1) 新型コロナウイルスの感染という今までに経験したことのない状況の中で、妊産婦は潜在的に様々な不安やストレスを抱えている。
 - ・新型コロナウイルスの感染に対する不安
 - ・産後のケアが十分に受けられないことへの不安
 - ・生活の変化に伴う夫や家族との関係における問題
 - ・就労の問題、経済的不安など
- 2) 今後の周産期メンタルヘルスカは、このような心理社会的問題に一層配慮すると同時に、子どもの成長・発達に及ぼす影響も考慮して、長期的な視点にたってフォローしていく体制作りを考えていく必要がある。
- 3) オンラインによる産婦健診やメンタルヘルスカについては、今後そのメリット、デメリット、およびその限界などを明らかにして、面接や訪問と組み合わせることで、新しい時代の周産期メンタルヘルスカの形を考えていきたい。



知らないうちに、拡めちゃうから。

